



## ありがとう坂野中学校

第18代校長 岡崎 能治

坂野中学校は、校舎建設から40年以上が経過しており、施設・設備ともに老朽化の対応が緊急の課題となっておりました。

現在地での建て替えか、統合して建て替えかの話合いがしばらく続きましたが、厳しい財政事情もあり、最終的には統合に向けて大きく動き出すことになりました。新校舎が建設され、生徒の教室環境が良くなるというメリットを思えば喜ばしいと思う反面、現在よりもグラウンドが狭くなり、部活動をするのに支障がでるかもしれないというデメリットを考えて、内心複雑な思いがしたことを覚えています。

現在、坂野中学校の卒業生は1万人を超えており、社会のさまざまな分野で活躍されています。在任中の坂中生たちも、「今日は明日の歴史を創る」の校歌に歌われているように、様々な教育活動を通して、明るくたくましく成長していきました。私は、逆境に負けず困難を明るく笑いとばして乗り越えていくような強さとしなやかさを持っているところが、坂中生の良さではないかと思っています。

また、昔から坂野の地はスポーツに秀でた人たちが多い地域ですが、私の在職中も生徒たちはさまざまな種目で力を発揮し、多くの優勝旗を手にすることができました。

平成24年度は女子バトミントン部が団体準優勝し、四国大会に出場。野球部も県中央大会優勝。

平成25年度は、アイデアロボットコンテスト全国中学校大会初出場。エネルギー教育に積極的に取り組む学校を表彰する「エネルギー教育賞・中学生の部」で全国第二席の優秀賞。また、一年生の女子生徒が、アメリカで開催されたキャロウェイ世界ジュニアゴルフ選手権に日本代表として出場し、見事優勝、世界一に輝きました。

耐震化工事で約半年間体育館が使えないという不自由な生活の中、小学校の体育館を借りて文化祭が行われました。歌の発表や臨時の野外ステージでの寸劇やパフォーマンスでの中学生らしい情熱あふれる姿が、実に頼もしかったです。

創立六十九年という坂野中学校の長い歴史に幕を閉じることは、非常に残念なことであり、惜しいなど思う気持ちでいっぱいです。

しかし、坂中で学んだ沢山の生徒たち、ともに過ごした教員たち、そして学校を支え見守ってきた地域の方々の心に繰り広げられた様々なドラマは、いつまでも色あせることなく残り続けることと思います。

4月からは、坂野中学校と立江中学校のそれぞれの良さを併せ持つ、素晴らしい新中学校になることを心から願っています。

「ありがとう坂野中学校」声高らかに叫びます。